

どうして、フランス人研究者が国東に！？

赤松 秀亮（別府大学 専任講師）

〇はじめに

フランスの皆さん、はじめまして！私の名前は赤松秀亮と言います。日本の西、九州の大分県にある別府大学という大学で、日本史の教員をしています。研究テーマは中世史、とりわけ中世の地域社会についてです。私は東京で生まれ育ち、5年前に大分県へ移り住みました。旅行が好きで、これまで日本全国を旅してきましたが、日本人である私の目からみても、大分県、とりわけ国東半島は歴史や文化財の宝庫で、古き良き日本の雰囲気が残された魅力ある土地です。その魅力を一人でも多くの人に知ってほしいと考え、国東半島を舞台にした歴史研究のかたわら、時折PR活動に協力しています。

さて、現在、国東半島内の自治体である豊後高田市と国東市は、日本の政府機関である文化庁の「日本遺産」に認定され、文化財を活用した地域活性化事業「鬼が仏になった里、くにさき」に取り組んでいます。私が考える国東半島の魅力とは、京都や奈良など歴史に関わる有名な観光地に比べて、はるかに静寂で落ち着いた雰囲気のなか、古代の神と仏の融合（神仏習合）や中世に栄えた仏教文化、前近代からの農村風景を感じることができる点です。

国東半島の魅力を海外の方たちにも知ってほしい。そうした思いのもと、外国人観光客の誘致が進められつつあります。そうしたなか、国東半島の日本遺産事業が目にしたのは、自らの歴史や文化を重んじ、また他者の歴史や文化を尊重する国、フランスでした。日本に来るフランス人観光客の多くが日本の文化や歴史に興味を持っていることは知られており、フランスおよびフランス語に特化した国東半島の魅力発信の道が選ばれたのです。私自身、19世紀末にフランス人の宣教師が創立した学校でフランスの言葉や文化を学び、フランスをとて身近に感じていたので、国東半島へのフランス人観光客の誘致には喜んで協力したいと考えました。実際、フランスを訪れてみて思うのは、映画や文学をはじめ、漫画、アニメ、武道、食べ物、お酒ほか、日本の文化はフランスに広く伝わっているなど感じます（逆もまたしかりです）。

とはいえ、国東半島の歴史や文化の価値がフランスの人々にとって本当に魅力的であるのか、私たちは検証する必要がありました。そこで、私たちが協力を依頼したのは、フランス南部の代表的な名門校であるポール＝ヴァレリー（モンペリエ第3）大学で歴史や地理を研究する先生方でした。私たちは今年（2024年）5月～6月にかけて3名のフランス人研究者と国東半島をめぐる旅を行ったのです。

なぜ、フランス人の研究者たちが国東半島へ足を運ぶことになったのでしょうか？その背景には、大分県にある小さな大学と南フランスを代表する名門大学との交流の歴史がありました。以下では、その交流の物語を少しだけお話ししたいと思います。



別府大学



モンペリエ第3大学

○別府大学とモンペリエ第3大学との交流

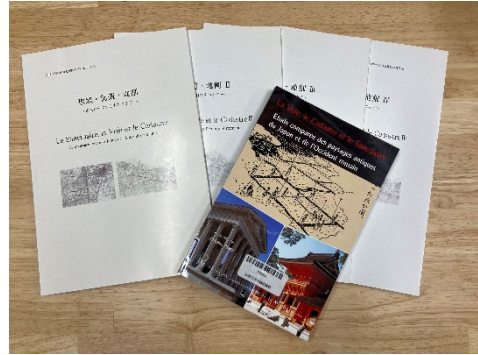
別府大学とモンペリエ第3大学(ポール・ヴァレリー大学)との交流は、すでに25年を越え、2024年6月には別府大学で記念シンポジウムも行われました。大学間の正式交流は1999年からですが、交流のきっかけは長らく別府大学でフランス語の教員として教鞭をとられた井上富江名誉教授の留学に始まります。卒業論文でポール・ヴァレリーの作品に取り組んだ井上名誉教授は、様々な縁があってモンペリエ第3大学への留学を果たしますが、厳しくもあたたかい学修環境のなかで、フランスの人々との豊かな関係を築かれ、その人脈が別府大学とモンペリエ第三大学との交流へと発展していきます。

別府大学(創立者 佐藤^{よしあき}義詮)は、戦後間もない1950年に開学し、長らく文学部だけの単科大学として地道な発展をしてきました。1990年代の後半、新世紀に向けて海外との新たな交流を模索するにあたって、井上名誉教授とモンペリエ第3大学との繋がりをたどって交流の道が開かれました。1999年からは歴史や文学をテーマに共同研究が開始され、交流協定も結ばれました。翌年には学生間の留学制度も始まり、2005年からは双方の教員がお互いの大学を訪問する交換教員制度が設けられ、現在まで交流が続けられています。私自身も2024年2~3月にモンペリエ第3大学を訪問し、2回の講義を行うとともに、先生方からあたたかいもてなしを受け、南仏各地の史跡を巡って素晴らしい経験をすることができました!

近年では、2014年頃から、マルティヌ・アセナ准教授とアントワヌ・ペレス准教授がモンペリエ第3大学側の窓口となって共同研究を開始し、古代における日本とローマ帝国の道路や地割についての比較研究を行い、大分県内の中津・宇佐地域について研究が深められました。在来の神でのちには国家の神となった八幡神を祭る宇佐神宮という神社=聖域とその周辺に展開した地割や官道について研究が深められたのです。その成果は、日仏双方での国際シンポジウムで発表され、現在までに1冊の書籍と5冊の報告書が刊行されるなど、目覚ましい成果を上げました。他方、この共同研究が開始されてから10年が経ち、新たな共同研究の可能性が模索され始めています。



モンペリエ第3大学での授業風景（赤松）



共同研究の成果（日本側報告書は、<https://www.beppu-u.ac.jp/oer/oa/13.html>で公開）

○2024年の交流事業と新たな可能性

2024年は私たちにとって特別な年となりました。5月には教員交換事業でヴァンサン＝シャレ先生が、6月には国際シンポジウムへの登壇のためにペレス先生とアセナ先生が来日され、別府大学側の教員・学生たちと交流の機会が設けられました。

滞在中、先生方をどこに案内するかを考えた際、私たちが選んだのは、大分県内で最も歴史調査・研究の蓄積がある国東半島でした。すなわち、大分県立歴史博物館では、1980年代初めから40年近くに渡って国東半島で歴史の調査・研究を実施し、歴史学、考古学、民俗学、地理学など関連分野の研究者たちが県内の地域史を詳細に明らかにしてきました。そうした研究成果の一端をお伝えしながら、国東半島を巡る旅を企画した場合、フランス人の研究者はどのような反応をするのかという関心もあり、ご案内しました。

当日は、国の重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」をはじめ、周れる限りの重要地点を可能な限りご案内しました（詳細は、以下に続く先生方の記事をご覧ください）。結果として、全員の先生が国東半島の仏教文化や歴史的景観に強い関心を示してくださり、同時にその歴史的・文化的価値に比して観光客が多くはない点を不思議に思われたようでした。

そもそも、国東半島には宇佐神宮の領地（荘園）が集中し、また宇佐から国東へと仏教文化が拡大してきた経緯があります。そのため、6月の国際シンポジウムにおいて、私の方から、これまで研究をしてきた宇佐・中津に加えて国東半島に視点を広げて研究することを提案したところ、ご快諾いただいただけでなく、「日本遺産」事業を通して国東半島の歴史的・文化的価値を紹介するための紀行文まで書いていただくことができました。先生方が寄稿してくださった格調高い素敵な文章は、読者を国東の旅へといざなうことでしょう。

別府大学とモンペリエ第3大学の先生方との長年の信頼関係が、こうして国東半島の魅力発信に繋がったことを大変嬉しく思うとともに、国東半島での研究を益々頑張っていきたいと思っています。国東半島にて皆さんをお待ちしています！！



別府大学でのシンポジウム風景
(ペレス先生・アセナ先生)



巡検の様子1 (国東市岩戸寺)
ペレス先生

別府大学・モンペリエ第3大学共同研究25周年記念シンポジウム
地域総合研究と比較史の可能性
— 学術交流の新たな展開に向けて —

開催：令和6年6月22日(土) 13:00~17:00

| | |
|---------|---|
| 13:00 ~ | 開会の辞 導 入 「別府大学とモンペリエ第3大学による学術交流の歩み」 飯沼哲司 (別府大学名誉教授) |
| 13:30 ~ | 第1部 「モンペリエ第3大学の研究活動と学術交流の可能性」 アントワーン・ペレス (モンペリエ第3大学准教授) マルティヌス・アセナ (モンペリエ第3大学准教授) |
| 14:20 ~ | 休 憩 |
| 14:30 ~ | 第2部 「別府大学の研究活動と学術交流の可能性」 上野淳也 (別府大学教授) 飯坂晃治 (別府大学教授) 赤松秀亮 (別府大学専任講師) |
| 16:10 ~ | 第3部 「新たな学術交流の展開に向けたディスカッション」 |
| 17:00 | 閉 会 |

お問い合わせ: 別府大学 国際交流課 電話: 0974-09151 所内番号: 52 TR 0974-091610 別府市 別府 1-1-1
共催: 豊後高田市文化財課(文化)・アジノ里文化センター 入浴施設(文化) 豊後高田市 豊後高田 1-1-1

シンポジウムチラシ



巡検の様子2
(豊後高田市田染小崎 アセナ先生)



別府大学での授業風景 (シャレ先生)